

⑬ (株)フイート SpeechCanvas

⑬ (株)フィート SpeechCanvas (概要)

企業名	株式会社フィート
機器・サービス名	「SpeechCanvas(スピーチキャンバス)」アプリ
問合せ先	<p>スピーチキャンバス アプリサポート窓口 サポートページ: https://www.speechcanvas.jp/ E-mail: support-sc/atmark/speechcanvas.jp (注)スパムメール防止のため「@」を「/atmark/」と表記しています。</p>
機器・サービスの概要	<p>聞こえる人と聴覚障害者とのコミュニケーションをサポートするアプリです。発話内容をリアルタイムかつ高精度にふりがな付きで文字化する「音声認識」技術を用いています。また、画面に文字や絵記号を手書きすることにより、テキストのみに比べてより円滑なコミュニケーションが可能になります。</p>
機器・サービスの特徴	<p>1. 機器・サービスの機能</p> <ul style="list-style-type: none"> ● スマートフォンやタブレット端末を使って、音声認識技術を用いて発話内容をリアルタイムで文字化します。 ● 加えて、画面に文字や絵記号を手書きすることにより、テキストのみに比べてより円滑なコミュニケーションを可能にします。 ● 様々な入力として、音声の入力や、画像付きの定型文に対応しています。 <p>2. 情報アクセシビリティの配慮内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 操作ボタンや文字サイズは大きめです。操作ボタンの配置や文字と筆談の面積は自由に動かせ、より多くの人にとっての使い勝手を良くしました。 ● 対面時の利用において、画面の回転はボタンひとつで簡単で見やすくしています。 ● 文字表示は、ふりがな付きを選べます。 ● マイクホンの接続が可能で、離れたところからでも発話が可能です。 ● 発話内容のログを完全に削除する、法人向けアプリを用意しています。

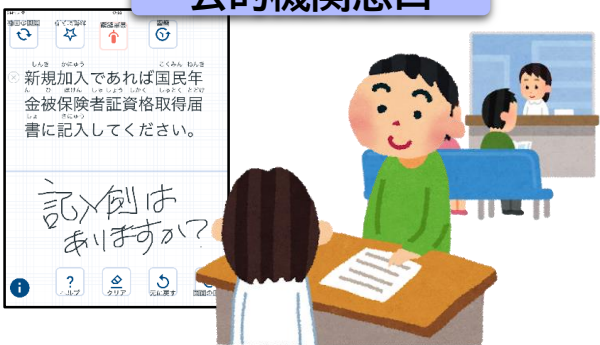
⑬ (株)フィート SpeechCanvas (概要)

発話内容が振り仮名付きで次々と文字になります。また、筆談してゆびやペンで書いて会話ができます。

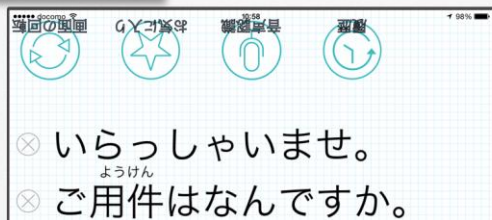
<特長>

- ・音声と筆談で、対面コミュニケーションを円滑にします
- ・画面はボタンひとつで回転します
- ・発話内容が、振り仮名付きで次々と文字になります
- ・フレーズや画像を「お気に入り」に登録できます

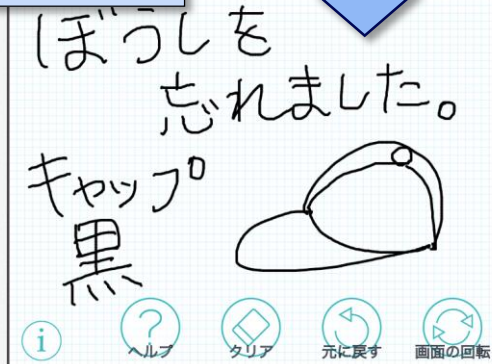
公的機関窓口



音声入力



手書き入力

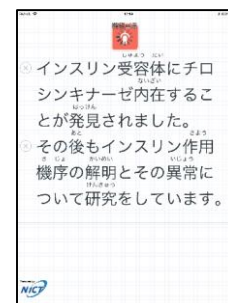


発話内容が文字になって筆談のみと比べて対応時間が短縮します

店頭接客



教育、医療、職場



法人向けアプリ

SpeechCanvas for Biz

1. 『システムの信頼性・安全性』
2. 『カスタマイズ対応』

情報漏洩リスクへの対策を強化します
業務特有の固有名詞の登録が可能です

<提供元>



<開発元>



高精度な音声認識技術
を使用しています

<アプリダウンロード・サポートページ>



⑬ (株)フィート SpeechCanvas (概要)

<p>当事者ニーズを踏まえた開発</p>	<p>聴覚障害者のコミュニケーションを支援する「SpeechCanvas」アプリサービスは、国立研究開発法人情報通信研究機構(NICT)による音声認識の利活用の着想に基づき、聾学校の協力により開発されました。</p> <p>以降、サポートHPおよび展示会からの問い合わせ、また自治体窓口による直接の実証実験により、高齢者・障害当事者(耳のきこえない人、耳のきこえにくい人など)やその当事者を支援する人の意見が日常的に収集されています。</p> <p>上記意見は、当該アプリの進化に生かされてきました。収集された意見に基づきアプリ機能についての精査を図り、企画段階では当事者、自治体、および大学医学部などの意見を伺っています。さらに、開発費対効果の検討を重ねた上で、機能のアップデートを実施しています。</p> <p>実証段階においては、当事者による使用感のフィードバックを受けて効果検証を実施しています。自治体や業務上での利用に適切な固有名詞が登録できるなどして音声認識の精度が向上し、また情報セキュリティ対策を強化して、業務一般や教育などの専門性を有する生活の利便性は向上しました。</p> <p>今後も展示会などを通じて意見を反映し、より良いサービスの開発が実現可能な状態となっています。</p>
<p>企業としての取組</p>	<p>情報アクセシビリティに係るアプリ開発時の取組みの一つに、アプリ利用者から個人情報を含む情報そのものの取り扱いに係る問い合わせがあります。そのため、企業としては、情報セキュリティマネジメントシステム(Information Security Management System: ISMS)の国際規格である「ISO/IEC 27001:2013 / JIS Q 27001:2014」の認証を取得しました。毎年、社員教育や内部監査、および認証の更新などを実施し、外部機関により情報セキュリティ対策への取組みが認められています。</p>

1. 当事者・開発者の視点でみたときに、アクセシビリティ配慮として評価できる点

a. 製品が提供する価値

- 音声認識技術を用いた発話内容のリアルタイムな文字化に加え、画面に文字や絵記号を手書きすることにより、テキストのみでのコミュニケーションと比べて円滑なコミュニケーションが可能になる。

b. 機能面でのアクセシビリティ配慮

- ログを完全に削除するアプリケーションを用意している。
- ボタン等が大きめであり、多くの人にとって使い勝手が良いと思われる。

2. 当事者にとって重要であるが、今後更なる配慮が期待される点(今後期待したい点)

a. 製品が提供する価値

- 発話者の感情やその場の雰囲気把握するための音声の強弱等の表現ができるよう期待する。
- 発話された内容をわかりやすい文章に変換する機能の搭載を期待する。
- 音声を手話に変換して表示できる機能の搭載を期待する。

b. 機能面でのアクセシビリティ配慮

-

3. 当事者ニーズを踏まえた開発について、優れている点

- ろう学校の協力により開発された。サポートホームページ、展示会での問い合わせ対応及び地方公共団体窓口での実証実験を通して聴覚障害者の意見を日常的に収集し、アプリケーションの改良に活かしている。
- 利用場面を広範かつ具体的に押さえている。
- 地方公共団体や業務上での利用に当たって適切な固有名詞を登録している。

4. 企業としての取組について、優れている点

- 情報セキュリティマネジメントシステムの国際規格「ISO/IEC 27001:2013 / JIS Q 27001:2014」の認証を取得している。
- 支援技術の提供企業として障害当事者と連携する仕組みができています。
- マーケットが必ずしも大きいわけではないにも関わらず、社会に役立つ製品を生み出そうとする姿勢が評価できる。